

院内グループワークが職種間のコミュニケーションに及ぼす影響

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

○渡邊 徳子、杉本 朱実、森本 義晴

【目的】不妊治療は医師・看護師・胚培養士・心理士など多職種が連携して患者を支えるため、職種間のコミュニケーションは不可欠である。良好なコミュニケーションは、医療事故の防止に繋がり、医療の質を高めると考えられる。そこで、グループワーク（以下 GW とする）を通して、職種間のコミュニケーションの現状及びその後の影響について、アンケート調査から検討した。

【方法】「患者満足度の向上について」をテーマに GW を実施した。GW は、職種・経験年数が違うスタッフを組み合わせ 6 名ずつのグループとした。GW 後、参加前後のスタッフの意識変化についてアンケート調査を行った。

【結果】参加者は 36 名で、アンケートの有効回答は 32 名。「コミュニケーションが取りづらいと思うか」の質問について、12 名（37.5%）が「取りづらい」と回答した。そのうち 8 名（66.7%）が参加後は「取りやすくなった」と回答した。理由として「心理的に距離感が近くなった」「話しかけやすくなった」と回答した。また、仕事に対するモチベーションについては、GW 前後のスコア（5 点満点）が、平均 3.68 点から 4.21 点となり、32 名中 15 名（46.9%）はスコアが向上した。その理由として、「他職種の業務内容や患者への向き合い方を話し合い刺激となった」「自分では思い浮かばないアイデアを知り、出来ることが色々あると思った」等の意見あった。

【考察】多職種間の GW は、同じ問題について一緒に考えることでコミュニケーションの円滑化に繋がった。また、多角的な視点で話し合うことで職種による役割の理解やチームとしての課題も見出すことができ、モチベーション向上にも繋がった。より良いチーム医療を実施する為に、今後も継続的に院内グループワークを実施していきたい。